

1. 実況上の着目点

① 本州付近に500hPaに -36°C 以下の寒気を伴うトラフがあって東進。潮岬の高層観測500hPa気温は -32.7°C の今冬最低を観測。東日本を中心に大気の状態が不安定となっており、北陸や伊豆諸島付近では雷を検知。日本付近は冬型の気圧配置となっており、北～東日本の日本海側では10cm/3h前後の降雪の所がある。また、全国的に気圧の傾きが大きくなっており、強い～やや強い風が吹き、波が高くしけの所がある。

② シベリアには500hPa 5160m付近

に -39°C 以下、700hPaで -27°C 以下の寒気を伴った寒冷渦があって南東進している。

③ バイカル湖の南には500hPa 5400m付近に -30°C 以下の寒気を伴う寒冷渦があって南東進。また、モンゴル付近に500hPa 5400～5520mにトラフがあって東南東進している。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①のトラフは、19日夜には日本の東に進み、本州付近の上空寒気は急速に弱まる。その後、20日にかけて500hPa 5400～5640mのリッジが本州付近を東へ移動。冬型の気圧配置は西日本から緩み、西～東日本では、日本海側を中心とした降雪や風は弱まり、高波の所も次第に低くなる。

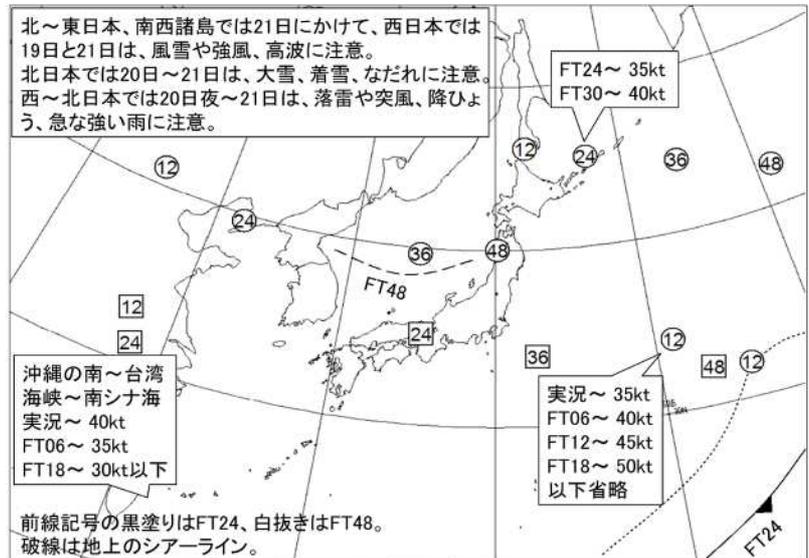
② 1項②の寒冷渦は、20日にサハリン～千島近海へと東南東進し、対応する低気圧がオホーツク海を東南東進。北日本では気圧の傾きが大きいので、風雪が強く波が高い所がある。また、北海道付近には500hPa約 -36°C 、700hPa -27°C 以下の寒気が新たに流入するため、降雪が断続的に強まる所がある。北日本では20日は風雪や高波に注意。北海道では20日は大雪による交通障害、なだれに注意。

③ 1項③の寒冷渦とトラフは、東南東進して20日夜には浅まりながらもボツ海付近と日本海西部に進む。先行するトラフに対応し、低気圧が20日夜までに日本海で発生して、発達しながら21日に東北地方を通過したあと日本の東を東北東進する。また、日本海には地上の北よりと西よりの風によってシアーラインが形成されて21日夜にかけて日本海を南下する。低気圧に向かって下層暖湿気が流入することとトラフに伴う上空寒気の影響も加わり、西～北日本では大気の状態が不安定となる所がある。西～北日本では20日夜～21日は落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。北日本の内陸部や東日本の山地では雪となり、低気圧近傍の東北地方では降雪量が多くなる所がある。東北地方では21日は大雪による交通障害や着雪、なだれに注意。21日は低気圧周辺及び大陸から張り出す高気圧との間で日本付近は広い範囲で気圧の傾きが大きくなる。21日は全国的に強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：北海道40cm。③ 波浪(明日まで)：沖縄4、その他広い範囲で3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定はない。



主要じょう乱解説図